

### 3. 司会挨拶

#### 【総合司会】

**福岡県保健医療介護部薬務課 課長補佐 佐藤 仁美**

皆さま、こんにちは。定刻となりましたので、ただいまより第 23 回福岡県合同輸血療法委員会を開催いたします。本日司会を務めさせていただきます福岡県保健医療介護部薬務課課長補佐をしております佐藤と申します。どうかよろしくお願いいたします。

開会に当たりまして、まず福岡県合同輸血療法委員会において代表世話人を務めます福岡大学病院輸血部部长、熊川みどり先生より開会のごあいさつを申し上げます。

### 4. 開会挨拶

**福岡県合同輸血療法委員会代表世話人**

**(福岡大学病院輸血部) 熊川 みどり**

こんにちは。熊川です。皆さま、週の半ばの平日の午後にもかかわらず、たくさんの方にお集りいただきありがとうございます。今回、福岡県合同輸血療法委員会は第 23 回を迎えます。今まで輸血の適正使用ということに毎年取り組んでまいりまして、同種血輸血の適正使用、さらにそれを補う形で自己血輸血、さらにはアルブミンの適正使用ということについて、今まで取り組んでまいりました。

輸血というと、スローガンで「適正で安全な輸血」という言葉がまず浮かぶのですが、適正な輸血の取り組みが進んできますと、安全な輸血についてそれぞれの施設で取り組まれていると思いますが、合同輸血療法委員会としては正面から今まで取り組む機会がありませんでしたので、今年は安全な輸血について考えていくということを題にして、「安全な輸血のためにできること」ということで会の構成を考えました。

第 1 部は、そのためにいろいろ活動されている方にご発表いただきます。私が座長を務めますので、その時にそれぞれご説明いたしますが、各施設の発表。それから第 3 部では、日本輸血・細胞治療学会のほうで「科学的根拠に基づいた輸血有害事象の対応ガイドラインについて」ということでまとめられておりますので、そちらについて藤井先生から後ほどご講演いただきたいと思います。それらを併せて、明日からの輸血について、安全な輸血のために今まで以上にできることについて、それぞれ考えて取り組んでいただきたいと思います。

また第 2 部では、例年のアンケートの他に、4 年前にも 1 度、中小規模施設の方に輸血の状況についてアンケートを行いました。そのことを基にそういう施設での輸血医療の支援ということで、福岡県合同輸血療法委員会の中のタスクフォースの方が集まり、それと看護部会の方の協力、全面的な福岡県赤十字血液センターのバックアップの下に輸血の研修会、小～中規模施設の看護師の方、臨床検査技師の方それぞれに対して、研修会を行っております。こちらもたくさんの方にご参加いただいている状況で、その状況を踏まえて、今年 4 年ぶりにアンケートを実施して、状況が変わってきたのかなということも見ておりますので、そちらの発表もさせていただきます。

最後に、今回たくさんの方にお集りいただいております。今ちょうど寒い時期でいろんな感染症が取り沙汰されております。もし今日ご参加されている方で、マスクでいろいろ自衛されている方も多いと思いますが、急に咳や鼻水が出て、そう言えばマスクがなかったとお困りの方は、数に限りはありますが受付にマスクも準備しておりますのでご活用ください。部屋の出入り際にはアルコール消毒、皆さま医療従事者の方なので当然と思いますが、そちらのほうもご協力いただいて、この会に参加したことで体調を崩したという方が出ないようにご協力をお願いしたいと思います。

以上を持ちまして、本日のあいさつに代えさせていただきます。本日もよろしくお願いいたします。

## 5. 挨拶

### 【司会】

続きまして、福岡県保健医療介護部、白石博昭医監よりごあいさつを申し上げます。

#### 福岡県保健医療介護部 医監 白石 博昭

皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました医監の白石でございます。本日は皆さまご多用の中、第23回福岡県合同輸血療法委員会にご参加いただきまして、ありがとうございます。また、各医療機関の皆さまにおかれましては、血液製剤の使用適正化に関するアンケートにご協力をいただいております。この場をお借りして、重ねてお礼を申し上げます。

血液製剤の安定供給に欠かせない輸血用血液の確保につきましては、献血事業それから適正使用、この双方の推進が欠かせません。厚生労働省においても輸血療法の実施に関する指針、それから血液製剤の使用指針、これに基づきまして輸血療法の適正化、血液製剤の使用適正化を推進しているところでございます。

県としましては、ボランティアの皆さまをはじめ、日本赤十字社や市町村と協力して、若年層の献血者の確保を重要な課題としまして、献血運動を推進しているところでございます。

また、県内の安全で適正な輸血療法の向上を図ることを目的に、全国に先駆けまして今回23回目になりますが、福岡県合同輸血療法委員会を設置しまして、情報交換会、研修会を実施するなど、血液製剤の適正使用に向けたさまざまな取り組みを行っているところであります。さらに九州各県合同輸血療法委員会関係者会を活用いたしまして、九州各県の安全かつ適正な輸血療法の向上のため、医療関係団体の皆さまと日本赤十字社、および県の連携強化に取り組んでいるところであります。

また、本日は輸血医療機関における輸血療法委員会の設置にかかる活動報告をお願いしておりますが、これにつきましては先ほど申し上げました国の指針においても、院内における輸血管理体制のあり方の1つとして推奨されているところであります。県では福岡県赤十字血液センターと連携いたしまして、行政機関が実施いたします医療安全対策研修会あるいは病院の立ち入り検査、その際の説明会、これを活用しまして輸血療法委員会設置の必要性について周知を図っているところであります。

今年度からは、病院立ち入り検査の際の事前調査票といたしまして、新たに血液製剤の管理体制に関する調査票を加え、輸血療法委員会の設置を促す取り組みを進めているところでございます。

善意で寄せられた血液製剤がより効果的・効率的に使用され、患者さんの病状回復に生かされますようご理解、ご協力をお願いしたいと思います。

最後になりますが、本日の委員会が皆さま方の今後の血液製剤の適正使用推進の一助となりますことを祈念いたしまして、あいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

## 【司会】

続きまして、福岡県赤十字血液センター、松崎浩史所長よりごあいさつを申し上げます。

### 福岡県赤十字血液センター 所長 松崎 浩史

皆さま、こんにちは。福岡県の血液センター所長をしております松崎といいます。今日はとても暖かい陽気になりまして、陽気に誘われたわけではないと思いますが、こんなにたくさんの方が来ていただきましてとてもありがたいと思います。

福岡県の合同輸血療法委員会は歴史のある委員会でありますとともに、常に新しいことをしようという委員会です。最近では中小医療機関での輸血医療が安全に行われるようにと、研修会や今回ご発表いただきますアンケートなどをさせていただいています。

病院の方々には、自分の病院のことはよく知っているけど、隣の病院のことはよく分からないということもあると思いますので、ここで情報を収集していただいて、自分の病院の安全な輸血に反映させていただければと思います。と同時に、皆さんに活発な意見、質問などをしていただければ、演者も発表のしがいがあるかと思います。疑問は持ち帰るのではなく、ぜひここで解決して帰っていただきたいと思います。

血液センターからのお願いをちょっとだけさせていただきます。実は、福岡県はじめ九州全体として O 型の赤血球が不足しています。これは今不足なのではなくて、もうずっと何年も前から O 型の血液が不足しております。私も O 型ですが、血液型が O 型の方、ちょっと挙手をお願いしますか。ありがとうございます。

ご存じのように、血液型の O 型というのは人口の 30%と言われていています。しかし、供給比率は 30%よりやや多く、献血してくださる方は 30%よりやや少ない状況のため、他ブロックから頂くようなことも起こっています。ご自分が O 型である方はもちろん、ご家族、友人、親戚の方々も含めて、O 型の方がおられましたら「年に 1 回ぐらいは献血に行け」とお伝えいただければ、ありがたいと思います。

今日のこの会が皆さんにとって実りあるものであることを祈念いたしまして、ごあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。